2021 年 8 月 24 日 (火)　天気：曇り

「オープンハイハットが好き」

記入者：ラプタヘイブン

　ドラムは、一つ一つが太鼓やシンバルであって、それぞれを組み合わせて一つの楽器を構成している。ハイハットというシンバル部分は、リズムを細かく刻む為に使っている。チッチッチ…という音はハイハットを閉じた状態で叩いた時の音だ。逆にハイハットを開いた状態で叩いた時のシャーという音を「オープンハイハット」という。このオープンハイハットの音がめちゃくちゃ好きだ。

　2007 年ごろにハマったカナダのラップで好きなアーティスト達 (今も好き) は、オープンハイハットの使い方が面白かった。なんともいえないタイミングで大音量のオープンハイハットが「シャー！」と鳴ってくる。ヒップホップの曲の構成はループといって繰り返しが多いので、一曲のうちに何度もオープンハイハットに襲われることになる。「ちょっとうるせぇ！」と思いつつ何度も襲われているうちにこの音が好きになってしまった。なので曲を作るときには若干、数を多めに、音量も存在感を大きめにして作ってきた。

　実は自分達で新しい音楽を作ろうという話になって、真っ先にコンセプトとして取り入れたかったのが「オープンハイハット」だった。

　「曲の速度を下げる」ことを考えたとき、こうならないようにしようと注意していたことがあって、

①作曲の際のマス幅が 35.0 なだけで実際には 70.0 や 140.0 の速度感覚で進む
②リズム感が無く、いかにも変拍子的で前衛的
こうならないためにはどうしたら良いのか…

　曲の一拍目というのはリズム感を出すためにとても重要で、ほとんどのダンスミュージックが、一拍目に「ドン」と鳴るバスドラムという大きな太鼓の音を配置する。それかベース音が入る。低音の要素を一拍目に入れることでリズム全体に勢いと厚さを出しているのだ。

　新しい音楽を作るとなって、この大きな役割をオープンハイハットに任せたらどうなるのだろうか。と思いついた。まず、「ドン」という一拍目のバスドラムを配置しない。これがなくなってリズム全体の速度感がぐんと下がった。そこにオープンハイハットを配置する。一拍目から「シャー！」という音が襲いかかってくる。よしよし。想像よりもうまくいった。

　こうして一拍目にオープンハイハットを配置することとなった。「シャー！」っという長い音で速度感を下げつつも、存在感のある音でリズム感は作り出している。KAKEHAN では全曲でオープンハイハットが大活躍するが、特に「POWER」と「屋号」では、はっきりその存在を露出している。

　KAKEHAN 制作の裏側には色々細かい工夫があるのでさまざまな機会でちょいちょい紹介できればと思っている。一方で技術面だけでなく全体としても楽しんで欲しいと思っている。KAKEHAN では音楽の「理屈じゃない楽しさ」も味わってもらえると思うので。

　実はもう一度「味噌汁バトル」をやりたいと考えている。コロナの状況を予想すると、年末ぐらいにはやれるかな。HP を作りこむ作業が大変なので、寛治に甘えて動画制作を依頼して、YOUTUBE にアップが理想的かな。遠方のヒロは参加難しいかな。前回のメンバーの他に、誰が料理できるの？